

【市長と語る懇談会 記録】

開催日 平成 26 年 11 月 27 日（木）
地区 有緝小学校区
会場 有緝小学校 1 階プレイルーム
参加者数 7 人



《質問・意見》

まちづくりについて、有緝地区でどういうことができるか。行政の押し付けになってはいけないということは非常に感じている。有緝は多分一番大きな協議会だと思う。小さな所と大きな所が同じ金額で動くというのは、苦しい話だと思うので、その辺の配慮についてよろしくお願いします。

《回答》【市長】

これくらいの1万人規模の大所帯になってくると、色々課題も見えてくる部分もあると思いますので、地域の特性に合わせたことに使っていただけたら有り難いと思います。

《質問・意見》

既にまちづくり協議会が立ち上がっているところでは、相当活動が進んでいると思うが、市長はその地区のまちづくりのテーマや活動のプロセスなどをどのように把握しているのか。そして、どのようにサポートされているのか。進んでいるまちづくり協議会の活動の中に、市長が思い描いているまちづくりとラップするような部分があるとしたら、その部分を膨らます、そして行政がそれに連関して活動を展開していくというような、しくみづくりと行政の関わりについて、今現在どのように考えているのか。

《回答》【市長】

思い描く形としては、まちづくりを進めていくプロセスの部分がすごく大事だと感じています。地域の方々のまちに対する思いであったり、その時に見える人間関係であったり、そういった様々な環境によってスピードや濃度が変わってくると感じています。そして、早ければ良いというものでもないし、大きければ良いというものでもないと思います。皆さんが地域のことをどれだけ熱心に研究され、議論し合っているとすることが大事になってくるのだと感じています。地域づくりが人づくりにつながっていくことになれば、なお有り難いことです。どのようにサポートしていけるかについては、地区担当の配置とか地区担

当のサポートのあり方を検討したいと考えています。地域の立場に寄り添った形で応援できる環境を考えていきたい。

《質問・意見》

神久の新しい地域は、船江や河崎の人と学校は一緒でも地域的には結びつきが全然無い。町内会でも人が全然集まらない。有緝学区でやられても、僕らのほうでは全然ついていくという気が無い。有緝学区で一つにまとめられても僕らとしたら困る。新しい地域もあるし、古い地域もある。地域的なものも考えて進めてほしい。

もう一点、子どもの通学路がものすごく危ない。伊勢工業高校の横の道路幅を広げてもらい、大きな側溝のところに車の待避所を造ってもらったが、待避所ができたことにより車のスピードが余計速くなった。交通量も増えている。松阪では、側溝の上に子どもが通れるようにガードレールがつけてある。伊勢工業高校のところも待避所を設けるなど広げてもらったのは良いが、ガードレールが無いので車が入ってくる。それともう一つ、天理教の所で緑色のカラー舗装の歩道があるが、対向するのにその部分を車が通るので、歩道のカラー舗装がきれいに消えている。今の道路整備は車中心である。市民を守るためにも歩道のことをもっと考えてもらいたい。

《回答》【市長】

その溝は、農業用排水になるかもわからないので、市で担当するところなのか確認させていただきます。前段のお話のように、それぞれ地域の想いもあるかと思います。地域のつながりをどのように作っていくかというのは大事であると考えています。

《質問・意見》

桧尻川の改修をずっと要望している。平成19年度末で第1期工事が終わっている。続いて第2期工事といって6年経っている。用地買収も地権者のことで皆さんに協力をしていただいて、大方のところまで進んできている。毎年要望を出してもいけないので、3年くらい出さなかった。6年経って今年あまりにも進まないの、総連合自治会の有緝学区の常任委員さんを通じて出した。回答いただいたら、3年前、4年前と全く同じ回答が返ってきただけ。この回答では何も進まない。もう一度、常任委員会と市長懇談会があるはずだから、市としての決意を持って県にはっきりと強く要望を出してもらうように常任委員会としてお願いしたいと申し上げた。ぜひよろしくお願ひします。

《回答》【市長】

今年も県の担当部署を回らせてもらうなど、市の担当部署も動いています。県も財政の問題を言ってきますが、皆さんと一緒に活動していくことが大事だと思いますので、皆さんの力を借りながら少しでも早く進めていきたいと思っています。